

令和7年度 水産試験場成果発表会を開催します

群馬県水産試験場における試験研究成果や水産行政のトピックについて、関係者を始め県民の皆様へ広くお伝えするため、成果発表会を開催いたします。

水産関係者だけでなく、水産に興味のある一般の方々など、どなたでも聴講できます。

■ 日 時 令和8年2月4日（水） 13：00 ～ 16：00

■ 会 場 群馬県庁（県庁舎） 2階 ビジターセンター （前橋市大手町1-1-1）

■ 参集者 県内養殖業者、県内河川湖沼漁協組合員、その他希望者

■ 発表課題

- 1 ハコスチの遊泳能力を調べる～動画から遊泳速度が測れるか？～
- 2 超絶サーモン軍団の増産に向けた課題と対策
- 3 ニジマスの高水温耐性試験
- 4 結氷状況の違いが赤城大沼の水質環境に与える影響
- 5 群馬県における釣獲アユ買取りの有効性検証
- 6 アユのコツキ症状抑制方法を探る
- 7 水産用トアラーゼを用いたアユ飼育試験と抗病性の確認
- 8 アユの初期飼育における小規模飼育技術の開発
- 9 新しい放流用アユ人工種苗の開発状況

■ 参加方法

次のURL（水産試験場 HP）に記載の方法またはQRコード（申し込みフォーム）から、令和8年1月23日（金）までにお申込みください。

URL：<https://www.pref.gunma.jp/page/734781.html>

▼申し込みフォーム



令和7年度群馬県水産試験場成果発表会 プログラム

会場：ビジターセンター（県庁舎2階）

13：05 13：20	1 ハコスチの遊泳能力を調べる～動画から遊泳速度が測れるか？～ 水産試験場 川場養魚センター 渡辺 峻
課 題 要 旨	遊漁用ニジマス「ハコスチ」の遊泳能力を理解するために「遊泳速度」に注目した。しかしながら、従来の方法では測定が困難であるため、動画を用いた遊泳速度の計測を試みた。今回、魚の遊泳速度の考え方について触れたうえで、研究内容を紹介する。
13：20 13：35	2 超絶サーモン軍団の増産に向けた課題と対策 水産試験場 川場養魚センター 新井 肇
課 題 要 旨	超絶サーモン軍団（ギンヒカリ、ハコスチ、超絶サーモンV3）の増産を目指して、水産試験場の施設整備を行い、種卵種苗供給を強化する。そこで、増産への課題について、検討したので報告する。
13：35 13：50	3 ニジマスの高水温耐性試験 水産試験場 川場養魚センター 井下 眞
課 題 要 旨	ニジマスは、高水温に強い個体を選抜育種することで次世代の高水温耐性が向上することが知られている。そこで、高水温に強いニジマス種苗を作出するため、川場養魚センターで保有するニジマスの高水温耐性を確認した。
13：50 14：05	4 結氷状況の違いが赤城大沼の水質環境へ与える影響 水産試験場 水産環境係 鈴木 紘子
課 題 要 旨	例年冬期に全面結氷していた赤城大沼が、2024年1～3月は部分的な結氷となった。そこで、全面結氷した翌年と比較し、水質やプランクトン量にどのような違いがあったか調査したので報告する。
14：05 14：20	5 群馬県における釣獲アユ買取りの有効性検証 蚕糸特産課 水産係 塩澤 佳奈子
課 題 要 旨	群馬県内の河川で釣られたアユは流通しておらず、遊漁者自身の消費に限定される。そこで、釣獲アユの有効利用方法の検討のため、遊漁者からアユを買取り、塩焼きにして観光客等に提供するイベントを開催した。参加者へのアンケート結果等をもとに、その有効性を検証したので報告する。
休憩 14：20 ～ 14：40	
14：40 14：55	6 アユのコツキ症状抑制方法を探る 水産試験場 水産環境係 小西 浩司
課 題 要 旨	アユの養殖や畜養時に発生する「コツキ」は、飼育のストレスに起因するとされている。コツキの発症を抑制する手法の開発を目指し、今回は水深や換水率、飼料の種類などについて検討を行った。
14：55 15：10	7 水産用トーアラーゼを用いたアユ飼育試験と抗病性の確認 水産試験場 生産技術係 齋藤 駿介
課 題 要 旨	アユの稚魚期は、飼料の消化性が低く、さらに免疫の発達も不十分である。そこで、生菌入り混合飼料「水産用トーアラーゼ」をアユ種苗に投与し、飼料効率および抗病性を検討したので、その結果について報告する。
15：10 15：25	8 アユの初期飼育における小規模飼育技術の開発 水産試験場 水産環境係 阿久津 崇
課 題 要 旨	アユの新規系統の作出等を行う場合、仔魚を比較的小規模（50～500尾）の単位で飼育する必要があるが、事業規模（50万尾程度）と比較して小規模飼育の知見は不足している。そこで、小規模飼育施設を構築し、飼育実験を実施したので、その結果を報告する。
15：25 15：40	9 新しい放流用アユ人工種苗の開発状況 水産試験場 水産環境係 鈴木 究真
課 題 要 旨	アユ遊漁の振興に向けて、冷水病に強く、放流効果の高い優良な人工種苗を開発することが重要である。水産試験場では、令和7年度から放流用の新たな人工種苗の開発を開始したので、現在の開発状況について報告する。